

予防接種制度の変更について H25年4月1日から

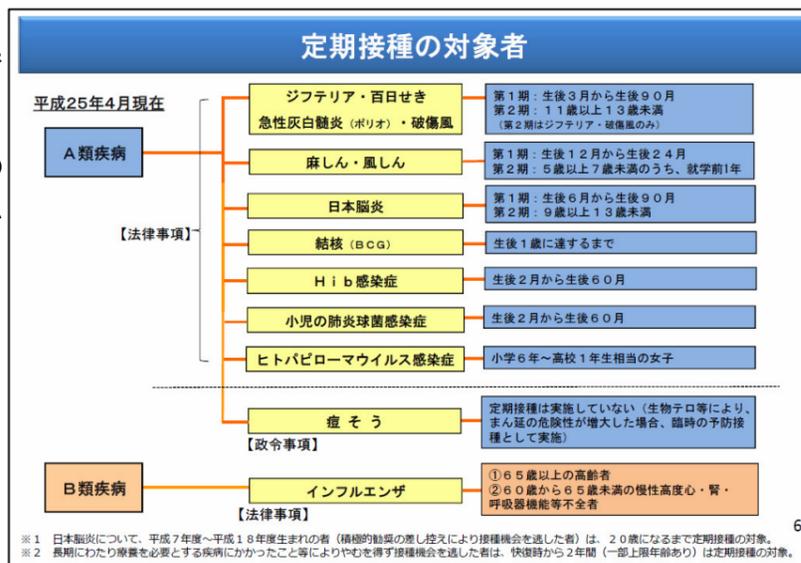
◆ 予防接種の目的は「集団感染の予防」と「個人の感染・重症化の予防」です。空気感染や飛沫感染を予防するには、**マスクの着用、うがいや手洗いのほかワクチンによる予防接種が有効**です。これらは個人の感染や重症化を予防するだけでなく、同時に集団の大量感染を予防するうえでも重要です。予防接種の対象疾患は表の通りです。

分類	重点ポイント	努力義務	接種推奨	疾病名
A類疾病	主に 集団予防、 重篤な疾患 の予防	本人に あり	あり	ジフテリア、百日咳、急性灰白髄炎（ポリオ）、麻疹、風疹、日本脳炎、破傷風、結核、 Hib 感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がん予防）、痘そう（天然痘） ※赤字が新規追加
B類疾病	主に 個人予防	なし	なし	インフルエンザ

1994年（平成6年）までは予防接種は義務接種と呼ばれていました。現在は「義務接種（努力義務）」となり**個人（または保護者）の責任で予防接種を受ける体制**となりました。国の予防接種計画や方針が明確になっていない時期に学童期を過ごし（昭和50年代～平成初めの生まれ）、**予防接種を受けないまま成人になった世代が麻疹や風疹に大勢が感染する事態が起こりました。**

当院の職員は健康診断などの際の血液検査で麻疹や風疹の抗体検査を行い、必要と思われる職員には個別に連絡し予防接種を受けていただいています。これは個人の感染を予防するだけでなく、職員自らが気づかないうちに抵抗力の低い患者さんへ感染させてしまうことを防ぐためです。

かかってからどうやって治すかではなく、その病気にかからないよう「予防する」という考えで、自らの命と健康を守るために、予防接種を受けましょう。



梅雨や夏場での水周りは大丈夫ですか？

菌が繁殖しやすい環境は洗面台、蛇口や排水溝など湿潤した水回りです。水周りが赤くなっていたり、緑色になっていませんか？細菌には**赤い色素を産生するセラチア菌**や**緑色色素を産生する緑膿菌**があります。これらの菌は湿潤状態にある場所に多数生息しています。

【セラチア菌】 *Serratia marcescens*（セラチア・マルセッセンス：霊菌）

腸内細菌科のグラム陰性桿菌

（生息場所）ヒト：腸管内常在菌（少数派）

自然：水中、土壌、植物、昆虫、動物など

病院：水周り（流し台など）

消毒薬耐性：ホルヘジン、界面活性剤に耐性

【緑膿菌】 *Pseudomonas aeruginosa*（シュードモナス エルジノサ）

ブドウ糖非発酵性グラム陰性桿菌

（生息場所）ヒト：常在しない

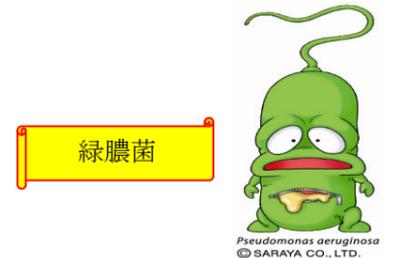
自然：水中、土壌、植物、果物、野菜など

病院：水周り（水道栓、流し台など）

消毒薬耐性：ホルヘジン、界面活性剤に耐性



セラチア菌



緑膿菌

セラチア菌も緑膿菌も健常者には本来病原性の弱い菌です。しかし、尿路感染症、呼吸器感染症、敗血症、創傷感染など多くの感染症を起こすことが知られています。日和見感染の原因にもなる重要な菌です。最近では、多剤耐性菌も検出され院内感染の原因菌としても注目されています。

第1回院内感染対策講習会報告

H25年7月3日 6F 多目的ホールにて

今回の院内感染対策講習会は当院泌尿器科の森山 学 医師より「尿路感染症について」の講習があり、職種を問わず、250名以上の参加がありました。

研修会では尿路感染症で特に多いのは急性膀胱炎と急性腎盂腎炎で、膀胱炎では発熱は無く、腎盂腎炎では高熱や腰痛を生じるなどの臨床症状の違いについて明確に示されました。また、一般的な病院の感染症として最も多いのは尿路感染症であり、全体の約40%を占め、さらにその80%がカテーテル関連であると話があり、興味深い内容ばかりでした。

リハビリテーション部などで尿道カテーテルを留置している患者さんは多くみられます。採尿バッグのフィルター部や尿排出口の衛生管理、採尿バッグが膀胱より低い位置を保つようにするなど取り組んでいましたが、改めてカテーテル管理の重要性を考えることができました。また予防のための管理方法についてより具体的な説明もあり、臨床に生かせる講習会でした。

